

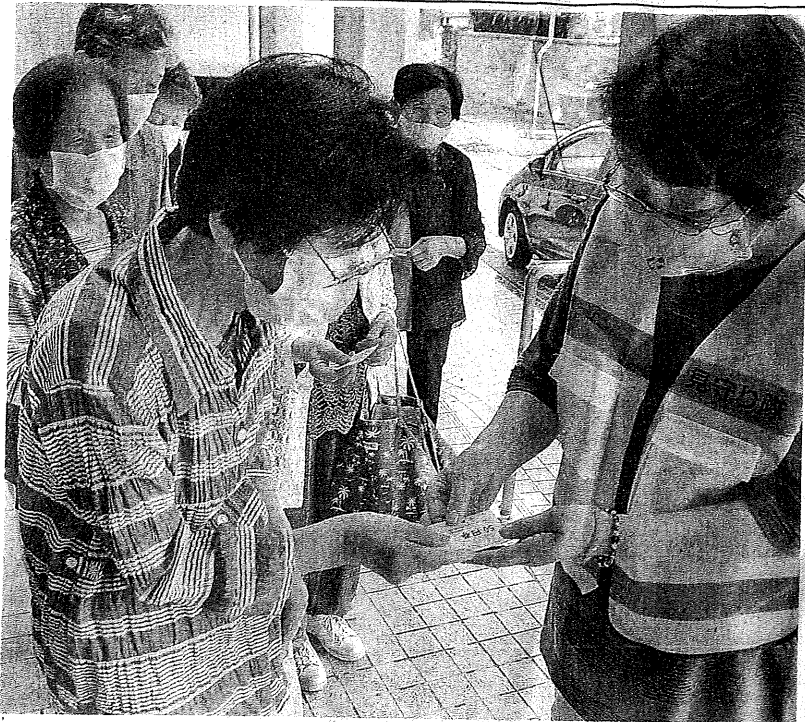
南丹・園部 木崎町区

買い物やごみ出し、話し相手…

住民同士「ちよいっと支援」

南丹市園部町の中心部にある木崎町区がこのほど、買い物やごみ出しの手伝い、話し相手となることなど、生活の上でさまざまなサポートを住民同士で行う「ちよいっと支援」を始めた。100円で30分利用できる。高齢化が進む中、年を取っても助け合って暮らせる地域を目指す。

木崎町区に暮らす約千人のうち、区長の中川圭一さん、65歳以上が約2割を占める。77歳が新たな互助制度のさらに高齢者の割合が増えることあり方を検討していた。制度に



地域の茶話会に出席する際に手助けした支援員(右)に助成券を渡す利用者＝南丹市園部町・木崎町児童老人会館

高齢化 助け合い目指す

登録した支援員3人が、買い物やごみ出し、散歩への同行、電球の交換、草むしりなど、ちょっとした困りごとを手助けする。

利用は有料とした。小額を支払う方が、サービスを使う際の心理的なハードルが下がると考えた。区は、日常生活に助けが

いる要支援や要介護の利用者らに対して100円分の助成券を年度内に40枚渡すなどして、経済的負担を減らす。スーパーなどに向かう際の交通手段がない場合、支援員が車で送り迎える。同市社会福祉協議会と相談した上で、移動部分は対価を得ない無償ボランティアと位置づけ、一般ドライバーが有償で送迎する白タク行為に該当しないようにした。

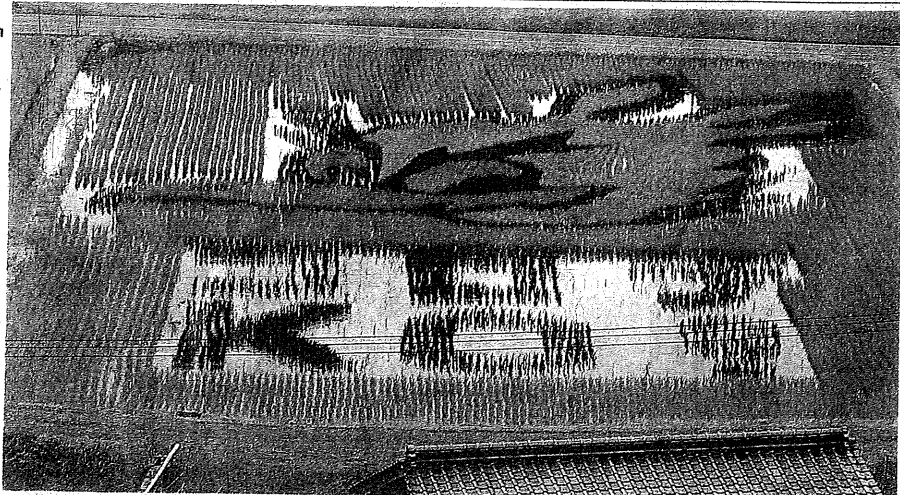
13日の茶話会に参加する際に見守りの支援を受けた地元の野口英代さん(90)は高齢者にとついても良い制度を作ってもらいたいと喜んだ。中川さんは「支援する人を増やし、利用しやすくしていきたい」と意気込んでいる。(陰山篤志)

災害時の医療物資 優先供給で協定

南丹市と地元企業など2社

南丹市は15日、南丹市と京都両市の企業2社と

災害時の物資供給に関する協定書を交わした。非接触型の検温計など、新型コロナウイルスの感染



「コロナKO!」の文字がかたどられた田んぼアート(京丹波町下山)

田んぼアートで「コロナKO!」 京丹波・白土地区

と、伊勢のら、頭て「がいける、てロ名、播年るッ

